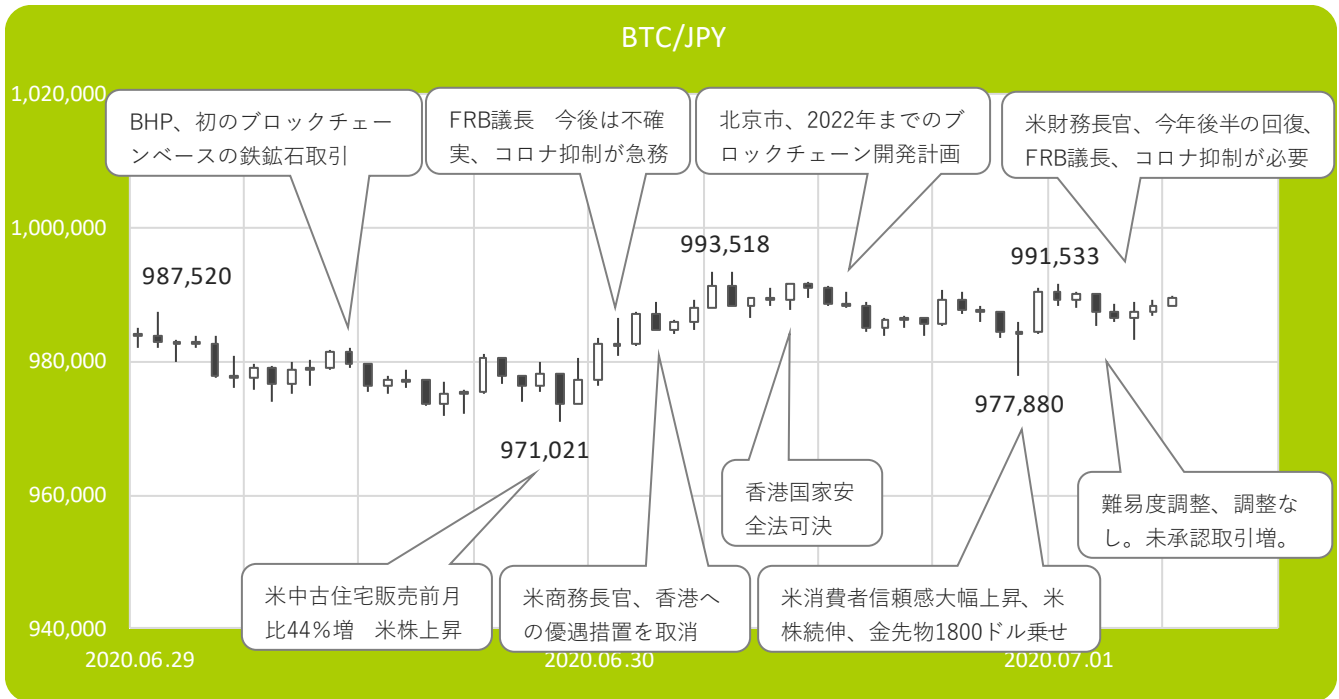


【動意の薄いビットコイン相場、次のブレイクは上か下か？】



通貨	BTC	ETH	XRP	BCH	LTC
価格	988,422	24,386	19.0	23,966	4,460
前日比	+0.0%	▼1.1%	▼1.2%	▼1.1%	▼0.9%

Review

米消費者信頼感 2011年以来の上昇

昨日のBTC相場はもみ合い推移。97万円円でサポートされるとほぼ98-99万円の非常に狭いレンジでの取引に終始した。米中古住宅販売が前月比44%増となったことを受け木曜日の米株が反発、上昇に転じていたBTC相場だが、100万円へあと数千円という水準で上値を重くした。香港国家安全法が予定通り可決、また北京市が2022年までにブロックチェーンハブとなるための行動計画が伝えられたが、相場の反応は限定的。米州時間を前にいったん97万円台に値を落としたが、米消費者信頼感が85.9から98.1へと2011年以来の大幅上昇を見せ、米株は続伸、金先物価格(8月限)が8年ぶりの1800ドルに乗せると99万円台に値を戻した。しかし、注目の議会証言で米財務長官は今年後半の景気回復と楽観的見方を示す一方で、FRB議長はコロナ抑制が必要と慎重な姿勢を見せたこと、また難易度調整前後で未承認取引が急増していることなどもあり上値を抜けられずにいる。

Outlook

第2波懸念をどう考える？

本日のBTC相場は堅調な展開を予想する。昨日の議会証言でFRB議長は慎重な姿勢を見せ、別の公聴会でファウチ米アレルギー感染症研究所所長は感染者が1日10万人に増加する恐れもあると警告した。確かに全米の感染者数は1日4万人前後と4月のピークを上回っており第2波への懸念が相場の重石になっている。しかし欧州やNYの感染者数は抑えられており、拡大はフロリダ・テキサス・カリフォルニアなど一部の地域だ。このところ明るい指標が続いており、本日のIMFや木曜日の雇用統計次第では株価上昇・BTCもレンジ上抜けもあろうか。

著作権表示@2020 FXcoin 株式会社

本レポートは一般的な情報提供を目的に作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。レポート内のいかなる情報又は意見も、仮想通貨の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではありません。本レポートは予告なしに内容が変更されることがあります。本レポートは著作物であり、著作権法により保護されております。当社の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家へ配布することはできません。